

公安委員会定例会議(第13回)の開催状況

第1 日 時 令和3年5月26日(水)

午後1時30分 ～ 午後4時30分

第2 出席者 曾我部委員長、渡部委員、増田委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長、
刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
総務課長

第3 議事の概要

1 増田委員説示

今日は、「ナッジ」と「目的から物事を見る」という2点を話します。

県議会や警察署協議会でも、交通事故防止の対策について質問されることがしばしばあります。交通事故を防ぐためには、広報や取り締まりなど様々な取組が必要ですが、人間の行動特性を踏まえた上で情報や知識を伝え、より良い意思決定ができるよう促すナッジという方法もあり、色々と工夫をしていただきたいと思います。

また、目的から物事を見ることも大事です。例えば、一つの道路交通法違反行為に対して科されるものに刑事処分と行政処分がありますが、刑事処分は、違法行為に対し刑罰を科すものであるのに対し、行政処分は、危険なドライバーを道路交通の場から一時的に退場させるというもので目的の違いがあります。その結果、処分を考える際にも、この目的を達成するためにはどのような処分がふさわしいかを考えなければなりません。

日常生活や業務においても、目の前の事象に捕われすぎて小手先の手段しか見えなくなることがありますが、何のためにこれを行うのか、行わなければならないのか、時折思い返してみる癖をつけておいていただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和3年第12回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情申出の受理

総務室から、公安委員会宛て苦情申出の受理について伺いがあり了承

した。

(3) 犯罪被害者等早期援助団体の規則に基づく書類提出

総務室から、犯罪被害者等早期援助団体の規則に基づく書類提出（犯罪被害相談員の選任）について報告があり了承した。

(4) 禁止命令等実施結果報告

生活安全部から、2件の禁止命令等実施結果について報告があり了承した。

(5) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果19件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 公務災害認定状況

警務部長から、令和2年度中における公務災害認定状況について報告があった。

(2) 持続化給付金不正受給詐欺事件被疑者の逮捕

刑事部長から、愛媛県警察及び警視庁の合同捜査本部が、持続化給付金不正受給詐欺事件被疑者を逮捕した旨報告があった。

委員から、「被害の未然防止に向けた窓口対策も引き続き進めていただきたい」との発言があった。

委員から、「制度を悪用する者を出さないためには、確実に摘発していくことが必要であり、警察の役割は大きい」との発言があった。

(3) ドライバー向け「横断歩道安全・安心強化月間」の実施

交通部長から、本年6月1日から30日までの1か月間実施する、ドライバー向け「横断歩道安全・安心強化月間」について報告があった。

委員から、「色々とアイデアを出し、記憶に残る取組を行っていただきたい」との発言があった。

委員から、「マスクへのシンボルマークの貼付などで、職員も気持ちを一丸にしつつ、県民の皆さんの意識の盛り上げを図っていただきたい」との発言があった。

(4) 機動隊・交通機動隊合同災害訓練の実施

警備部長から、オフロードバイクや災害救助用バックホウを用い、機動隊及び交通機動隊が合同で実施した災害訓練状況について報告があっ

た。

委員から、「映像伝達訓練では、本番に備え、電波状態の悪い地域等を把握しておくことが重要である」との発言があった。

委員から、「合同訓練や機材の活用訓練など、色々な訓練を積み重ねて、いざという時に備えていただきたい」との発言があった。

(5) 令和3年度初任科生に対する採用時教養の現状

警察学校長から、令和3年度に採用された警察官（初任科生）に対する採用時教養の実施状況について報告があった。

委員から、「入校生皆が、感染症等により患することなく、元気に過ごしていると聞き安心している。引き続き、健康管理等には万全を期していただきたい」との発言があった。

(6) 人事案件

警務部から、人事案件について報告があった。

(7) ストーカー規制法の一部改正

生活安全部から、ストーカー規制法の一部改正について報告があった。

4 その他

本部長から、「委員説示のように、交通事故抑止に関しては、例えば、先日運転免許センターで実施したアンケート結果を有効活用しつつ、どう効果的に県民の皆さんに伝え、行動変容を促していくか、しっかりと検討していきたい」、「業務を進めるに当たっては、目先の事象に捕われることなく、しっかりと目的意識を持つことが重要と考えている」との発言があった。

以上